

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和 4 年 10 月 14 日

犬 山 市 議 会
議 長 三 浦 知 里 様

議員名 畑 竜 介

下記のとおり、先進地視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和4年10月11日(火)～令和4年10月12日(水) (1泊2日)
(2) 場 所	兵庫県丹波篠山市・大阪府吹田市
(3) 形 態	会派（令和新政クラブ）：その他（ ）
(4) 内 容	① 自治会の法人化について 丹波篠山市では市が積極的に法人化を進めており、自然豊かな農村への移住される方と地域の自治会とも上手く交流をしているとの事。しかしながら、法人化に伴い数の定義が「世帯」から「人」に代わる事で、従来の運営方法と整合性を取るのが難しいとの課題もある。 当市には70の認可地縁団体があるが、市が積極的に進めた印象はなく、新しい住宅開発の中で結果として認可地縁団体が出来ているように感じる。
	当市もデジタル町内会の推進など積極的に新しい取り組みをされているが、市民団体やボランティア団体など専門的な分野に特化している団体との連携や、支援などを通じて住民自治の在り方を考えていきたい。 また多様な団体と関係を持つことで、住民が地域と新たな関りを持つきっかけになる事も期待される。



重要伝統的建築物保存地区について

視察先：丹波篠山市

当市と比べて人口は半分ほどであるが、視察当日は丹波の黒豆が解禁になったこともあり町中は大変な賑わいでした。

この1か月間でおよそ60万人の観光客が来訪されるとの事。

重伝建については、犬山市もかつて目指していたこともあり、指定された町並みを興味深く見させていただきました。

犬山の城下町と違い、現存するお宅に今も住んでいらっしゃる方が非常に多く、生活感が垣間見えるのが非常に魅力的でした。

最近では保存から活用に切り替え、多くの民間企業が新しい試みをしている。

どの民間企業も城下町の魅力を理解し、無理な開発は行わずに伝統建造物を活用したイベントが増えている。

篠山地区・福住地区それぞれに住民主体のまちなみ保存会が発足し、竹林整備や防災訓練、古民家の再生など町並み保存活動に取り組んでいます。

こうした活動に、民間事業者も参画し住民と事業者との輪が広がっているところも犬山（特に城下町）には無いことでした。

篠山地区と福住地区で合わせて197の建築物が修繕され、年々景観の向上は進んでいます。

当市としては、城下町地区における事業者と住民のコミュニケーションを図る場所を作るなど、ともに「まちづくり」を進める仕掛けが必要であると感じました。

デジタルシティズンシップ教育について

視察先：大阪府吹田市

GIGA スクールと同時に、情報モラル教育からデジタルシティズンシップ教育にアップグレードされ、全国でも珍しく公立の小中学校で9年間のカリキュラムを基に授業に取り組まれています。

経済産業省の未来の教室等を参考に道徳・特別活動・総合学習の時間を使い年間で4時間ほどの授業をされているとの事。

これとは別に、いじめ予防授業も年間3時間実施しており、この7時間の授業をベースに、全ての授業に土台の概念として定着しつつあるとの事。

学校でも家でも言っている事が同じになる様に、家庭を巻き込む事が大切であり、その為に1つ3分程の動画視聴を宿題として出し、家庭で視聴をしてもらい、保護者からの感想を書く欄を設け、家庭での対話促進を図っています。

大切なのはICTを道具として危険なマイナスな物と捉えるか、便利なプラスな物として捉えるか判断をする事というのが印象的で、今後子供たちが必ず向き合わなければいけないICT機器について、プラスと捉え、自治体として進めなければいけない教育であるという強い想いで進められています。

デジタルシティズンシップ教育を実施してきた成果として、最近の子どもたちの様子を見ると、デジタル足跡を意識したり、発信の仕方を考えたり、子供たち同士で積極的に、時に激しく議論をしている様子が見られるとの事。

先生主導の授業から、学習主体に授業に変化していく昨今、新しい概念として本市としても取り入れていくべき考え方であると感じました。